

## 資質・能力を育むために ～「何を教えるか」ではなく「どのように学ぶか」～

### これから求められることは、知識をいかに活用することができるか

平成29年3月に公示された学習指導要領<sup>5</sup>では、教科等の目標や内容について、生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」という3つの柱に基づいて再整理され、これらの資質・能力の3つの柱が相互に関係し合いながら育成されるものという考え方に立っています。そのための授業改善の一つとして、学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現が求められています。そこでは、教師が主役ではなく、学習の主役は児童・生徒です。「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった3つの資質・能力を育成することを目指して授業改善を図っていきます。「主体的・対話的で深い学び」が目的ではなく、資質・能力を育むことが授業改善の目的です。授業を通して、単元を通して、教育課程を通して、子どもたちにどのような姿になってほしいのか、また、担任として、学年として、学校としてどのような力をつけていきたいのか、小さな視点ではなく、大きな視野をもって、子どもたちの成長を願い、よさを育んでいく必要性があります。

5【学習指導要領との関連：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

（小学校学習指導要領総則第3・1(1)より：中学校については児童を生徒とし、内容については同様の記載）

このようなことから、学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成30年度までの、A問題【主として知識】、B問題【主として活用】を問う設問構成から、これらの区別を見直し、知識・活用を一体的に問う形式へと平成31年度から変更されています。また、ストーリーが組み込まれている問題形式や、日常生活の場面と関連している内容や構成が主となっています。「知識」と「活用」がそれぞれ分かれて育成されるのではなく、知識を活用した学習を通して知識の定着や知識理解の深まりが図られると考えます。つまり、知識と活用が相互に関連し合いながら資質・能力が育成されていきます。学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能をいかに活用させて「生きて働く知識・技能」を培うかが求められています。

## 調査結果 小学校 国語

令和4年度 調査結果 小学校【国語】							
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		14	<b>55</b>	<b>-10.6</b>	<b>65</b>	<b>65.6</b>	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	<b>53.2</b>	<b>-15.8</b>	<b>65.6</b>	<b>69</b>
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	<b>68.6</b>	<b>-9.3</b>	<b>73.2</b>	<b>77.9</b>
	思考力、判断 力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	<b>62.1</b>	<b>-4.1</b>	<b>66.3</b>	<b>66.2</b>
		B 書くこと	2	<b>39.0</b>	<b>-9.5</b>	<b>47.9</b>	<b>48.5</b>
		C 読むこと	4	<b>58.4</b>	<b>-8.2</b>	<b>69.5</b>	<b>66.6</b>

令和3年度 調査結果 小学校【国語】							
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)	
			平均正答率	全国との差			
全体		14	<b>59</b>	<b>-5.7</b>	<b>63</b>	<b>64.7</b>	
学習指 導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	<b>59.8</b>	<b>-8.5</b>	<b>63.8</b>	<b>68.3</b>
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0				
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断 力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	<b>75.1</b>	<b>-2.7</b>	<b>78.9</b>	<b>77.8</b>
		B 書くこと	2	<b>56.3</b>	<b>-4.4</b>	<b>58.3</b>	<b>60.7</b>
		C 読むこと	3	<b>42.3</b>	<b>-4.9</b>	<b>48.7</b>	<b>47.2</b>

※濃い黒い網掛けは全国平均正答率との差が10ポイント以上、薄い黒の網掛けは全国平均正答率との差が5ポイント以上(以下同様)

## 調査結果 中学校 国語

令和4年度 調査結果 中学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>64</b>	-5.0	<b>69</b>	<b>69.0</b>
学習指導要領の領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	<b>66.2</b>	-6.0	<b>72.3</b>	<b>72.2</b>
	(2) 情報の扱い方に関する事項	1	<b>36.6</b>	-9.9	<b>43.7</b>	<b>46.5</b>
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	<b>68.0</b>	-2.2	<b>70.5</b>	<b>70.2</b>
	A 話すこと・聞くこと	3	<b>57.9</b>	-6.0	<b>65.1</b>	<b>63.9</b>
	B 書くこと	1	<b>36.6</b>	-9.9	<b>43.7</b>	<b>46.5</b>
	C 読むこと	2	<b>65.8</b>	-2.1	<b>69.9</b>	<b>67.9</b>

令和3年度 調査結果 中学校【国語】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>65</b>	0.4	<b>65</b>	<b>64.6</b>
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	<b>81.4</b>	1.6	<b>79.8</b>	<b>79.8</b>
	書くこと	3	<b>55.8</b>	-1.3	<b>57.2</b>	<b>57.1</b>
	読むこと	4	<b>49.0</b>	0.5	<b>49.6</b>	<b>48.5</b>
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	<b>74.0</b>	-1.1	<b>75.6</b>	<b>75.1</b>

※斑点の網掛けは全国平均正答率を上回ったもの

## 調査結果 小学校 算数

令和4年度 調査結果 小学校【算数】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>55</b>	-8.2	<b>64</b>	<b>63.2</b>
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	<b>61.4</b>	-8.4	<b>69.4</b>	<b>69.8</b>
	B 図形	4	<b>57.6</b>	-6.4	<b>64.9</b>	<b>64.0</b>
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	<b>43.7</b>	-7.6	<b>53.3</b>	<b>51.3</b>
	D データの活用	3	<b>58.7</b>	-10.0	<b>69.5</b>	<b>68.7</b>

令和3年度 調査結果 小学校【算数】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>67</b>	-3.2	<b>70</b>	<b>70.2</b>
学習指導要領の領域	A 数と計算	4	<b>58.7</b>	-4.4	<b>62.2</b>	<b>63.1</b>
	B 図形	3	<b>50.6</b>	-7.3	<b>57.3</b>	<b>57.9</b>
	C 測定	3	<b>72.2</b>	-2.6	<b>74.7</b>	<b>74.8</b>
	C 変化と関係	3	<b>72.1</b>	-3.8	<b>76.6</b>	<b>75.9</b>
	D データの活用	5	<b>75.2</b>	-0.8	<b>77.1</b>	<b>76.0</b>

## 調査結果 中学校 数学

令和4年度 調査結果 中学校 【数学】						
分類	平均正答率(%)	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		14	<b>45</b>	<b>-6.4</b>	<b>53</b>	<b>51.4</b>
学習指導要領の領域	A 数と式	5	<b>46.4</b>	<b>-11.0</b>	<b>57.9</b>	<b>57.4</b>
	B 図形	3	<b>37.9</b>	<b>-5.7</b>	<b>45.6</b>	<b>43.6</b>
	C 関数	3	<b>41.9</b>	<b>-1.7</b>	<b>46.0</b>	<b>43.6</b>
	D データの活用	3	<b>53.2</b>	<b>-3.9</b>	<b>57.8</b>	<b>57.1</b>

令和3年度 調査結果 中学校 【数学】						
分類	平均正答率(%)	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		16	<b>56</b>	<b>-1.2</b>	<b>58</b>	<b>57.2</b>
学習指導要領の領域	数と式	5	<b>63.7</b>	<b>-1.2</b>	<b>65.9</b>	<b>64.9</b>
	図形	4	<b>51.2</b>	<b>-0.2</b>	<b>54.0</b>	<b>51.4</b>
	関数	3	<b>55.8</b>	<b>-0.6</b>	<b>56.4</b>	<b>56.4</b>
	資料の活用	4	<b>51.0</b>	<b>-2.8</b>	<b>53.4</b>	<b>53.8</b>

## 調査結果 小学校 理科

令和4年度 調査結果 小学校 【理科】						
分類	区分	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		17	<b>57</b>	<b>-6.3</b>	<b>63</b>	<b>63.3</b>
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	4	<b>46.1</b>	<b>-5.5</b>	<b>51.8</b>	<b>51.6</b>
	「粒子」を柱とする領域	5	<b>50.8</b>	<b>-9.6</b>	<b>59.5</b>	<b>60.4</b>
	「生命」を柱とする領域	5	<b>69.6</b>	<b>-5.4</b>	<b>75.6</b>	<b>75.0</b>
	「地球」を柱とする領域	5	<b>59.5</b>	<b>-5.1</b>	<b>64.9</b>	<b>64.6</b>

## 調査結果 中学校 理科

令和4年度 調査結果 中学校 【理科】						
分類	平均正答率(%)	対象設問数 (問)	寒川町		神奈川県(公立)	全国(公立)
			平均正答率	全国との差		
全体		21	<b>46</b>	<b>-3.3</b>	<b>50</b>	<b>49.3</b>
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	<b>38.0</b>	<b>-3.9</b>	<b>42.4</b>	<b>41.9</b>
	「粒子」を柱とする領域	5	<b>50.0</b>	<b>-0.9</b>	<b>51.4</b>	<b>50.9</b>
	「生命」を柱とする領域	5	<b>55.2</b>	<b>-2.7</b>	<b>59.7</b>	<b>57.9</b>
	「地球」を柱とする領域	6	<b>40.5</b>	<b>-3.8</b>	<b>45.0</b>	<b>44.3</b>

【参考】全国の平均正答率(公立)の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。

(出典) 令和4年度全国学力・学習状況調査 報告書(文部科学省 国立教育政策研究所)

◇ 国語について

ここ数年課題とされている「書くこと」について分析していきます。

## 【小学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	差 全国正答率との	無解答率
3一	【文章2】の「 <input type="checkbox"/> 」の部分で、どのように気をつけて書いたのか、適切なものを選択する	文章全体の構成や書き方などに着目して、文や文章を整える	○			54.7	-4.5	2.4
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける			○	23.3	-14.4	24.0

## 【中学校】

設問番号	書くこと	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	差 全国正答率との	無解答率
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く			○	36.6	-9.9	9.3

## 問題 小学校 3二

【伝え合いの様子の一部】を基に【文章2】のよさを書く

この問題の趣旨は、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」ことです。自分の文章のよいところとは、「内容や記述などに見られる表現などの具体的なよさ」「書こうとした内容の明確さ」「文章全体の構成や展開の明確さ」などのことです。本設問では、「6年生としてがんばりたいこと」を伝えることが目的であり、【伝え合い活動の一部】において、川口さんが「最後の段落がいいね。なぜかというところ」というようによいところを具体的に言葉で表しているため、そこを基に【文章2】の中からよいところを見付け出すことが必要となります。誤答の中には、「文章のよいところ」ではなく、「文章の中での『行動』のよいところ」を答えていたものもありました。何について問われているのかをはっきりさせ、問題文の内容を正しく理解することが必要です。

## 問題 中学校 2三

農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える

この問題の趣旨は、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことです。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要です。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要です。また、引用の際には引用箇所を「かぎかっこ」でくくることが、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認する必要があります。

これまで「書くこと」が課題として挙げられてきました。令和4年度においても、自分の考えを持ち、表現する（書く）という設問に課題があると言えます。

校種や、設問内容が意図している目的によって変わりますが、「書くこと」は、誰に・何を報告するのかといった目的を明確にした上で、理由や事例を挙げて自分の考えをまとめて書くことになります。

どちらの問題にも共通している点は、まずは、「自分の考えを持つ」、そして「書く」という流れで、自分の感じたことや、考えたことを表現していくことです。さらに、なぜそのようなのか、根拠をはっきりとさせておくことも必要です。

単にただ、文字を写すといったことではなく、そこには「思考（考えをもつ）」を「表現（書く）」することが求められています。

「書く」ためには、思考しなければなりません。思考をして表現するという過程があります。つまり、書くためには、自分の考えをもつということが大事になってきます。また、子どもたちの「考え」の基盤は、自らの生活経験が大部分を占めます。学校教育活動をはじめとして、家庭や地域における体験活動や生活経験を大切に、児童・生徒が自分の考えや世界観を広げられるようにすることが大事となります。

また、「書くこと」の次に課題となっているのが「読むこと」です。「何が書かれているか」という内容を整理して読むこととともに、「どのように書かれているか」という表現面にも着目して読むことが大切です。物語全体をとらえられるようにし、着目した複数の叙述を基に考えたことを共有し交流する場面を設定することを通して、理解し想像する力をつけていくことが大切です。

## ◇ 算数・数学について

ここ数年課題とされている「数と計算」「数と式」について分析していきます。

## 【小学校 算数】

設問番号	数と計算	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の差 全国正答率と	無解答率
1 (1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる		○		90.6	-1.8	0.5
1 (2)	14と21の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる		○		63.7	-8.5	6.3
1 (3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる			○	66.1	-9.9	9.6
1 (4)	85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	○			30.0	-4.8	1.9
3 (1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる		○		64.7	-10.6	3.1
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる			○	53.4	-14.3	19.7

## 【中学校 数学】

設問番号	数と式	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の差 全国正答率と	無解答率
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる		○		34.5	-17.7	21.5
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2x+y=1 \\ y=x+4 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる		○		65.0	-9.5	10.9
6 (1)	同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 $n$ が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる		○		66.3	-7.5	6.4
6 (2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	35.0	-13.7	24.1
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる			○	31.0	-6.6	32.4

**問題 小学校3 (4)**

1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く

この問題の趣旨は、「**加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる**」ことです。輪投げのポイント数を求めたあかりさんの方法が「 $10 \times 15 + 5 \times 4 = 170$ 」であることを基にして、1年生と6年生の一人当たりのポイント数がそれぞれ10ポイントと5ポイントであること、輪投げを希望している人数がそれぞれ15人と4人であることから、 $10 \times 15$ が1年生のポイント数で $5 \times 4$ が6年生のポイント数であることを読み取り、この2つを足すことで輪投げのポイント数が求められることを読み取ることが大切になってきます。また、この式を計算するときには加法より先に乗法を計算することを理解しておく必要があります。

**問題 中学校1**

42を素因数分解する

この問題の趣旨は、「**自然数を素数の積で表すことができる**」ことです。整数の性質について理解を深める場面では、整数を様々な視点からとらえることができるようにするために、自然数を素数の積で表すことが大切です。例えば、42をその約数{1, 2, 3, 6, 7, 14, 21, 42}の積で表すと、 $2 \times 3 \times 7$ 、 $2 \times 21$ 、 $3 \times 14$ 、 $6 \times 7$ 、 $1 \times 42$ 、 $1 \times 2 \times 3 \times 7$ など様々な表し方があります。この中で42を「1とその数自体以外は約数をもたない数」としての素数の積で表したものは $2 \times 3 \times 7$ だけです。この問題を解くには、素数とは何かということを理解し、基礎となる問題を繰り返し練習することが必要となってきます。基礎となる土台がしっかりとできてから、その上に応用する力が積み重なります。

**問題 中学校6 (2)**

差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する

この問題の趣旨は、「**目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる**」ことです。ここでは、事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立て文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できることを目標としています。この問題を解くためには、差が4である2つの偶数の和を表した式を「 $4 \times (\text{整数})$ 」の形にすればよいという見通しを持って、式を変形できることが大切です。また、差が4である2つの偶数を文字を用いて式に表すには、片方を $2n$ とするともう一方はどのように表せるか説明できることも必要です。

また、「数と計算」「数と式」の次に今年度課題となっているのが、「データの活用」です。目的に応じて必要なデータを収集し、観点を決めて分類し、データの傾向や特徴を考察できるようにすることが重要です。そのためには、算数・数学の時間はもちろん、日常の中でもアンケートの結果等を表やグラフにし、活用していくことも大切です。

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事

柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに問題の条件を変えるなどして、発展的に考察することが大切です。そして、発展的に考察するためには、基本的な学習内容の定着が必要となってきます。

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」のある授業を行うためには、数学的な見方・考え方を生かすことが必要です。数学的な見方・考え方とは、「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、(論理的、)統合的・発展的に考えること」と明記されています。

算数・数学の授業においても「考えをもつことから書く」といった活動を中心に、「思考力・判断力・表現力」を育てていく必要性があります。前述したように、「書く」ためには、思考しなければなりません。よって算数・数学についても、書くためには、自分の考えを持つということが大事になってきます。そして、自分の考えをもつための道具として、基本的な学習内容の定着は大切です。

## ◇ 理科について

### 【小学校 理科】

今回課題があった「粒子を柱とする領域」について分析していきます。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と	無解答率
2(1)	一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	メスシリンダーという器具を理解している		○		49.9	-17.9	13.5
2(2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている	○			61.9	-8.1	1.2
2(3)	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	○			52.8	-10.0	1.2
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			○	31.3	-8.0	16.4

#### 問題 小学校2(4)

凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く

この問題の趣旨は「自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる」ことです。本設問では、自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その

内容を書くことが求められます。そのためには、比較の考え方を働かせながら、違いや共通点をとらえていくことが大切です。1つの問題を解く中に、①自然の事物・現象から正しく情報を得る ②他者の視点で分析する ③自分の考えをもち、書くという3つのステップがあるので、この3つを整理して進めることで分かりやすくなってきます。問題の中の情報を整理し、その情報を基に自分の考えをもち、書くということは、どの教科でも今年度問われていることです。

## 【中学校 理科】

今回課題があった「地球」を柱とする領域について分析をしていきます。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と	無解答率
6(1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	○			36.9	-11.1	0.5
6(2)	陸上のB地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる	○			57.0	-3.3	0.8
6(3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる	○			32.1	-2.1	1.1

### 問題 中学校6(1)

玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する

この問題の趣旨は「玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できる」です。玄武岩が火成岩であるという知識と、マグマが冷えて固まった火成岩には化石が含まれないということに関連づけて考える必要があります。火成岩がどのようにしてできるのか、また、火成岩にはどのような種類の岩石があるのかを整理して理解しておくことが大切になってきます。

身近にある岩石に化石が含まれる可能性の有無について、岩石に関する知識及び技能を活用して判断することは、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する上で大切です。

国語、算数・数学、理科の分析を通して、引き続きの課題として挙げられるものとして「自分の考えをまとめて書く」があります。

特に今年度は、単に「自分の考えをまとめて書く」だけでなく、「他者と話し合いをしながら、または他者の意見を取り入れながら自分の考えをまとめて書く」問題や、「根拠をはっきりとさせながら情報を取り入れて書く」問題などがありました。

先が見通すことが困難な今日において、「自ら問題を見つけ、議論を通じ修正していく力」が必要になります。そして、そのためには、各教科における基礎・基本となる内容をしっかりと理解しておくこともまた、大切なことです。

## ◇ 各教科における記述式問題について

### 【小学校 国語】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)	寒川町の全国正答率と無解答率	
			選択式	短答式	記述式		との全国正答率と	無解答率
1四	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、( )でどのように話すかを書く	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる			○	41.0	-6.7	5.8
2二	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の( )に入る内容を書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像する			○	59.2	-9.1	18.2
3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよきを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける			○	23.3	-14.4	24.0

### 【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	問題形式			正答率(%)	寒川町の全国正答率と無解答率	
			選択式	短答式	記述式		との全国正答率	無解答率
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す			○	41.4	-10.4	19.4
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く			○	36.6	-9.9	9.3
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する			○	71.9	-1.9	14.1

## 【小学校 算数】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と	無解答率
1(3)	カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる			○	66.1	-9.9	9.6
2(4)	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる			○	40.1	-7.9	9.4
3(4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる			○	53.4	-14.3	19.7
4(1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる			○	42.5	-6.3	5.3

## 【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	の全国正答率と	無解答率
6(2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	35.0	-13.7	24.1
6(3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる			○	31.0	-6.6	32.4
7(1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○	40.1	-3.9	1.6
8(2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			○	34.5	-3.9	28.9
9(2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる			○	7.4	-5.1	45.4

## 【小学校 理科】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率
1(2)	自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			○	56.6	-10.9	10.6
2(4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			○	31.3	-8.0	16.4
3(4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			○	26.0	-9.1	19.0

## 【中学校 理科】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	問題形式			寒川町		
			選択式	短答式	記述式	正答率(%)	全国正答率との差	無解答率
4(1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる			○	76.1	1.6	6.4
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる			○	38.5	-4.8	31.8
8(1)	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる			○	48.5	-6.7	14.3
8(2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる			○	50.7	-4.4	17.2
8(3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる			○	32.9	-6.3	0.8

## 「考え」を発信する場や機会をもつために

上記の結果は、小学校・中学校における国語と算数・数学の記述式の設問について示したものです。記述式の問題を解答するためには、「考えること」つまり「自分の考えをまとめる」ことが大切です。無回答率も含めて分析すると、記述式問題を苦手としている児童・生徒が多いということが言えます。

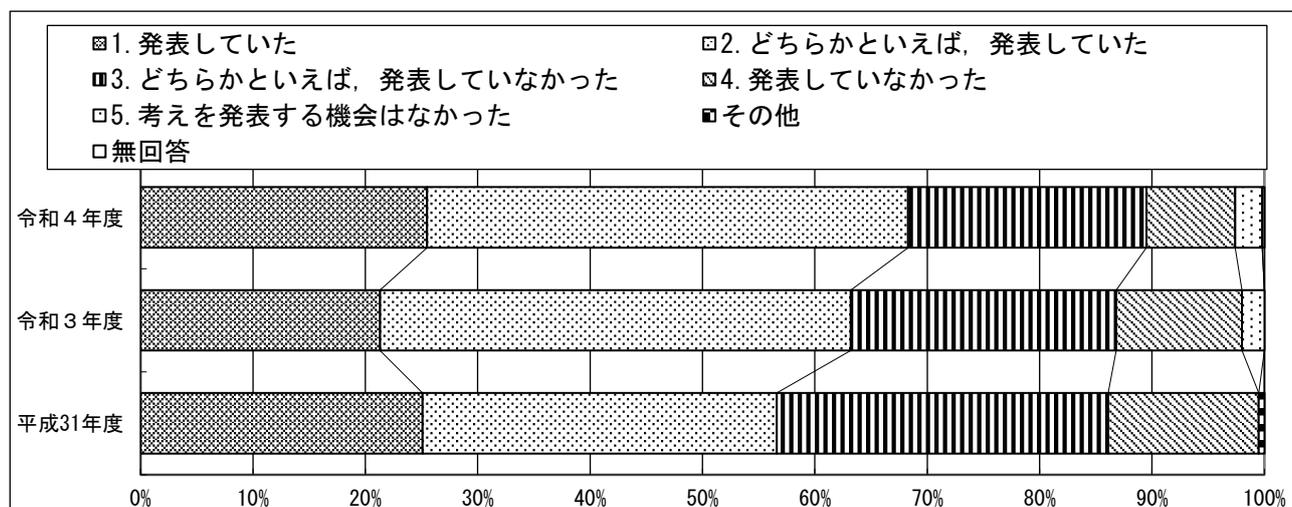
次の【児童質問紙(38)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」】及び中学校【生徒質問紙(38)「1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを

工夫して発表していましたか】では、高い割合の児童・生徒が当てはまると回答し、小学校、中学校共に全国よりも高い値を示しています。このことから、授業の中で自分の考えをまとめ、伝わりやすく工夫して書き、相手に伝える活動がしっかりと位置づけられていることが分かります。児童・生徒自らが考え、発信できる場や機会が保障され、さらに児童・生徒自らが工夫する姿が結果から見えてきます。

学習指導要領解説 総則編では、「言語能力を支える語彙の段階的な獲得も含め、発達の段階に応じた言語能力の育成が図られるよう、国語科を要としつつ教育課程全体を見渡した組織的・計画的な取組が求められる」とあります。寒川町の小・中学校では、言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて学校全体として取り組んでいるところです。引き続きこのような取組の目的を教師と児童・生徒で共有し、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現することの大切さを実感できる学習を充実させていくことが大切です。

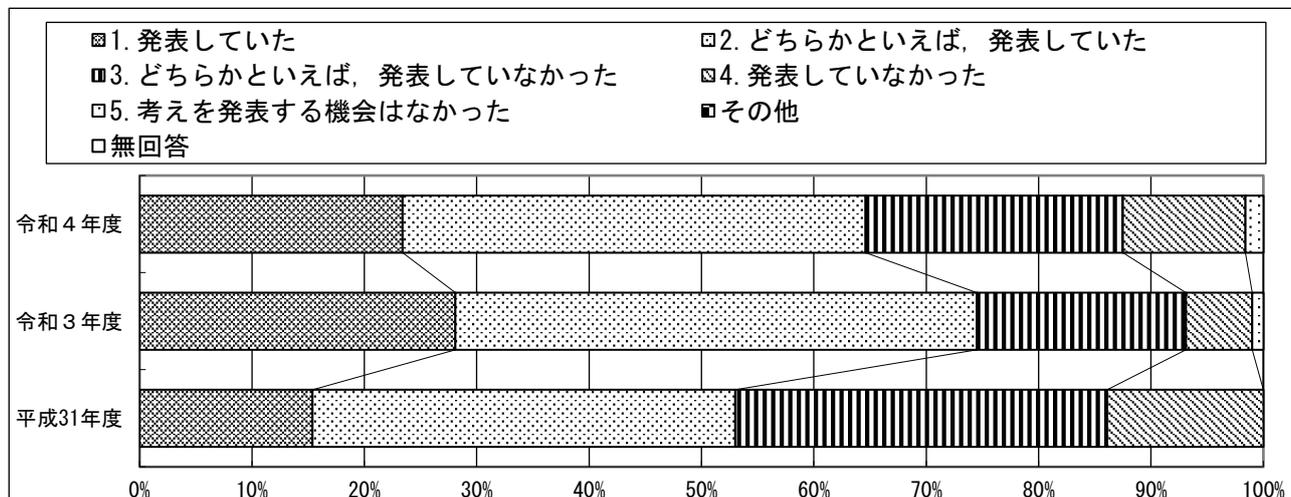
### 【小学校児童質問紙】

質問番号	質問事項										
(38)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	25.5	42.8	21.2	7.9	2.4			68.3		0.0	0.2
令和3年度	21.3	41.9	23.6	11.2	2.0			63.2		0.0	0.0
平成31年度	25.1	31.5	29.5	13.4				56.6		0.5	0.0



【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(38)	1. 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	23.4	41.2	22.9	10.9	1.6			64.6		0.0	0.0
令和3年度	28.1	46.4	18.6	5.9	1.0			74.5		0.0	0.0
平成31年度	15.4	37.6	33.1	13.9				53.0		0.0	0.0

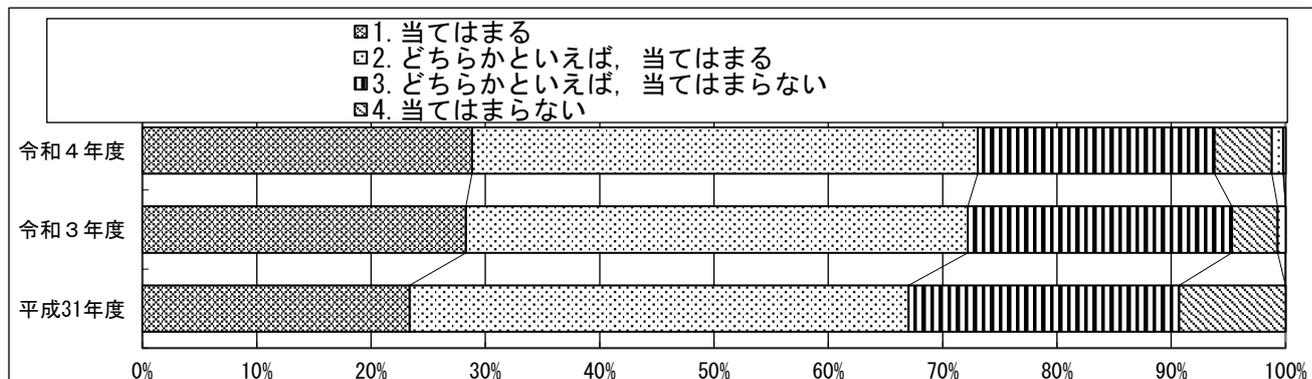


以下の項目は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に関する調査結果です。「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現のためには、対話的な学びの過程（他者との交流）が授業を構成する上で、大事となってきます。自分の考えを持ち、友達と交流をする場があることで対話が生まれます。さらに、深い学びにつながるように、単なる交流に終わらせないよう教師からの発問などのアプローチが必要です。

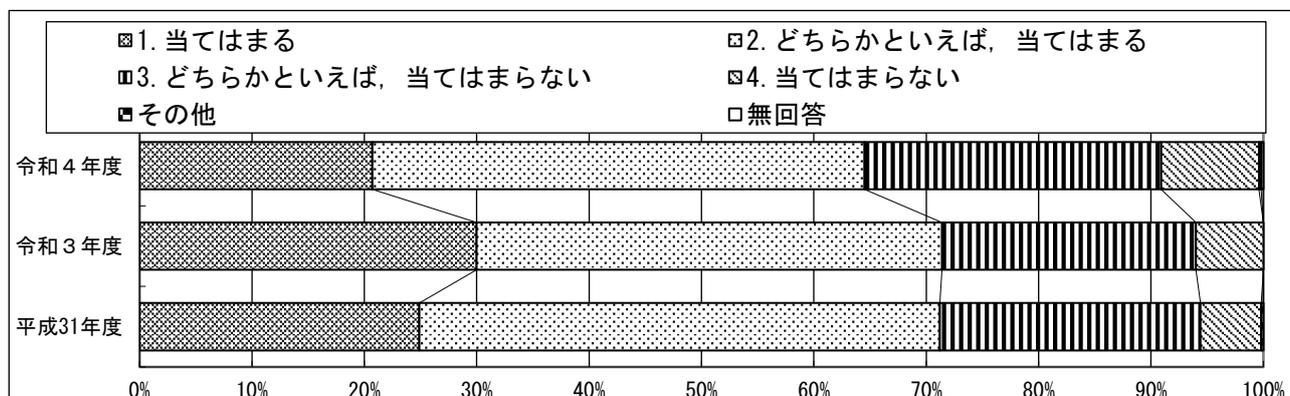
話し合いに向けた取組については、【児童・生徒質問紙（43）、（46）、（47）、（48）】にあります。

【小学校児童質問紙】

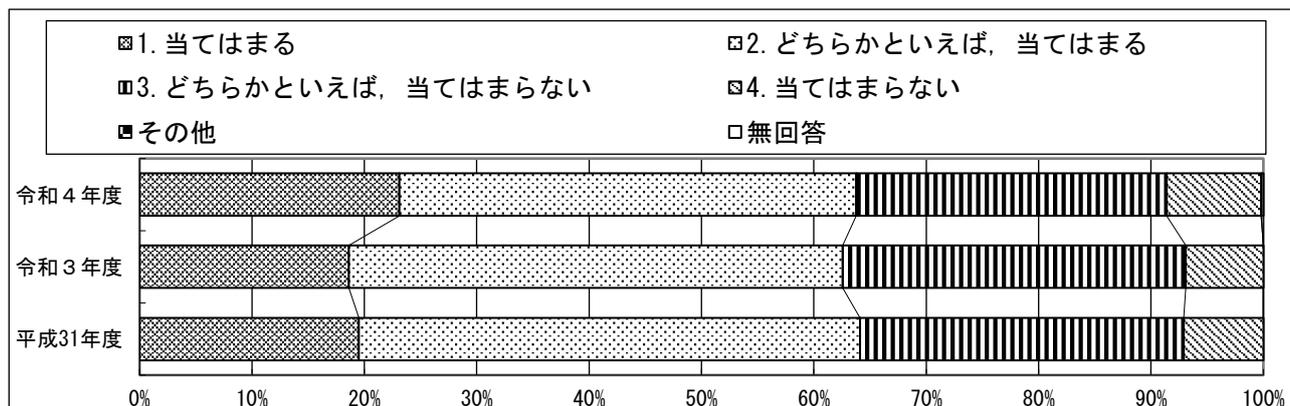
質問番号	質問事項										
(43)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	28.8	44.2	20.7	5.0	1.0			73.0		0.0	0.2
令和3年度	28.3	43.9	23.1	4.0	0.7			72.2		0.0	0.0
平成31年度	23.4	43.7	23.7	9.3				67.1		0.0	0.0



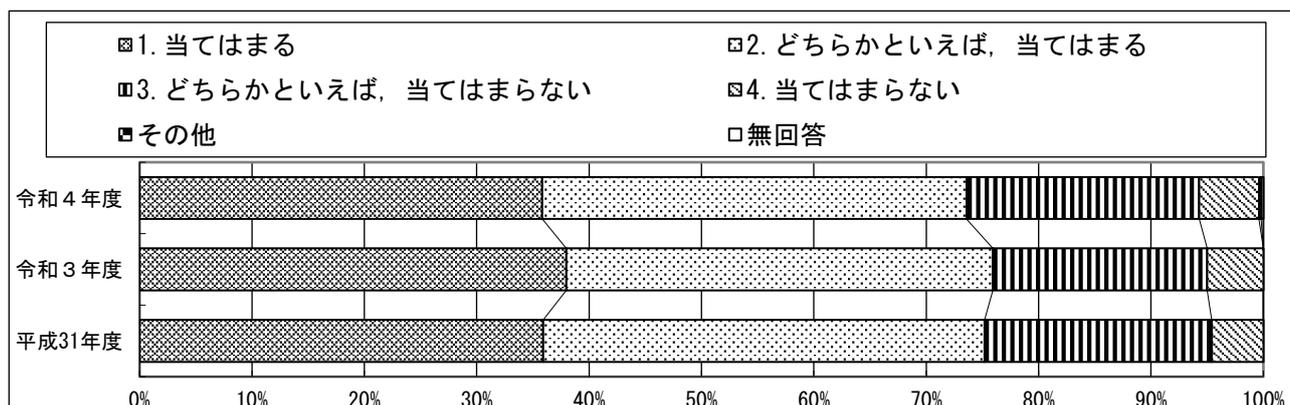
質問番号	質問事項										
(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	20.7	43.8	26.4	8.7				64.5		0.2	0.2
令和3年度	30.0	41.4	22.6	6.0				71.4		0.0	0.0
平成31年度	24.9	46.3	23.2	5.4				71.2		0.2	0.0



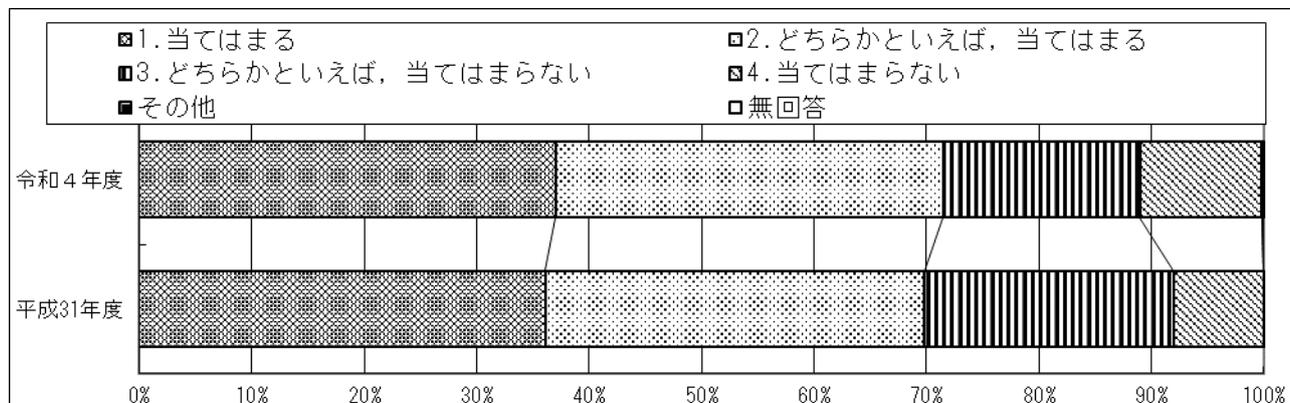
質問番号	質問事項										
(47)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	23.1	40.6	27.6	8.4				63.7		0.0	0.2
令和3年度	18.6	43.9	30.5	6.9				62.5		0.0	0.0
平成31年度	19.5	44.6	28.8	7.1				64.1		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(48)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	35.8	37.7	20.7	5.3				73.5		0.2	0.2
令和3年度	38.0	38.0	19.1	5.0				76.0		0.0	0.0
平成31年度	35.9	39.3	20.2	4.6				75.2		0.0	0.0

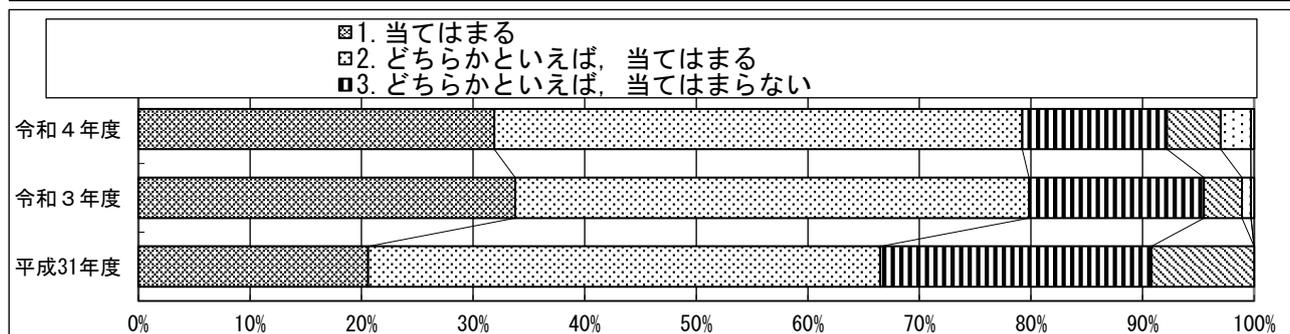


質問番号	質問事項										
(26)	読書は好きですか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	37.0	34.4	17.5	10.8				71.4		0.0	0.2
平成31年度	36.1	33.7	22.2	8.0				69.8		0.0	0.0

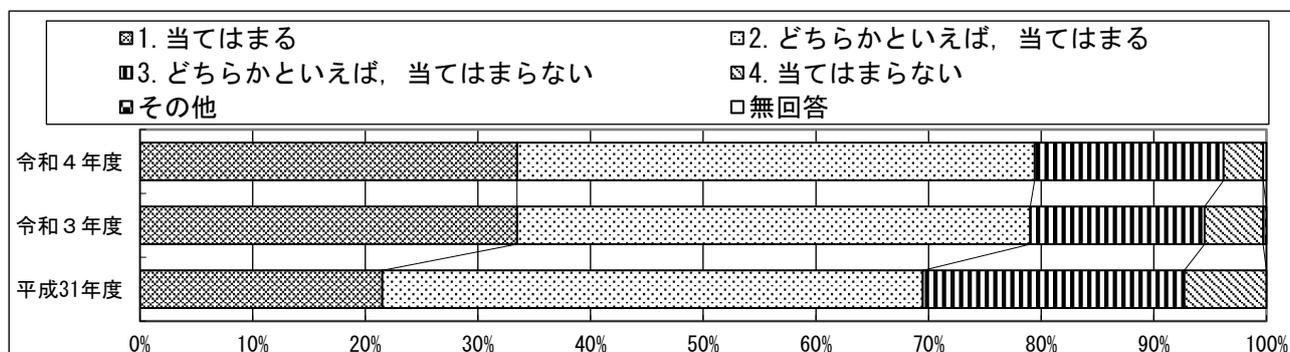


【中学校生徒質問紙】

質問番号	質問事項										
(43)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	31.9	47.3	13.0	4.8	2.7			79.2		0.0	0.3
令和3年度	33.8	46.1	15.7	3.4	0.8			79.9		0.0	0.3
平成31年度	20.6	45.9	24.3	9.2				66.5		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	33.5	46.0	16.8	3.5				79.5		0.0	0.3
令和3年度	33.5	45.6	15.5	5.2				79.1		0.3	0.0
平成31年度	21.5	48.0	23.2	7.3				69.5		0.0	0.0





今年度の児童・生徒質問紙の結果から、学級活動における話し合いが活発に行われている様子が伺えます。昨年度と比べると、ややポイントが下がっている項目もありますが、コロナ禍の影響を受けている期間が、令和4年度の児童・生徒は令和3年度の児童・生徒よりおよそ1年間長いことを考えると、その時々状況の中に応じた話し合い活動に取り組んできている様子が見て取れます。

また、【児童・生徒質問紙（48）】で示されているように、特別の教科 道徳の授業において、今求められる「考え、議論する道徳」の授業が展開されています。このように、授業において話し合い活動が積極的に行われ、他者と交流する機会が意図的・計画的に取り入れられている様子が伝わってきます。まさに、学習指導要領に沿って取り組んでいる、授業改善の視点の一つの表れである「主体的・対話的で深い学び」の学習スタイルが定着していることがわかります。

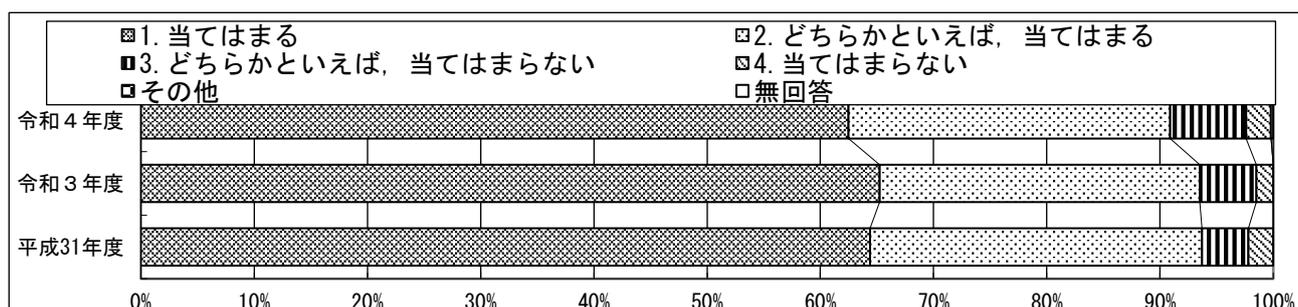
また、【児童・生徒質問紙（26）「読書は好きですか」】では約7割の児童・生徒が肯定的に回答しています。対話的な学びというのは、必ずしも会話をすることが必要な訳ではありません。本を読み、先哲の考えを知り、自分の考えと比べ自分の中に落とし込む。そういった過程の中で自分との対話を通して学ぶことも「対話的な学び」と言えるのです。今年度の学力・学習状況調査の問題の中には、「他者の意見や考えを受けて、自分の考えをまとめる」問題が多くありました。今後は、「友達との会話や文章の中の新たな考えを受けて、自分がどう考えを受け止め、調整し、枠を広げていくか」という学びがさらに必要になってきます。教師だけでなく児童・生徒にも「主体的・対話的で深い学び」という学習スタイルが少しずつ馴染み、浸透してきている姿が見えてきている中、今後も感染対策を十分に講じ、多様な手法を検討しながら、様々な教科、時間、場面を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を推進していく必要があります。

また、以下に、国語科に関して【児童・生徒質問紙（50）「国語の勉強は大切だと思いますか」】、算数（数学）科に関して【児童・生徒質問紙（54）「算数（数学）の勉強は大切だと思いますか」】理科に関して【児童・生徒質問紙（62）「理科の勉強は大切だと思いますか」】についての結果を示しています。

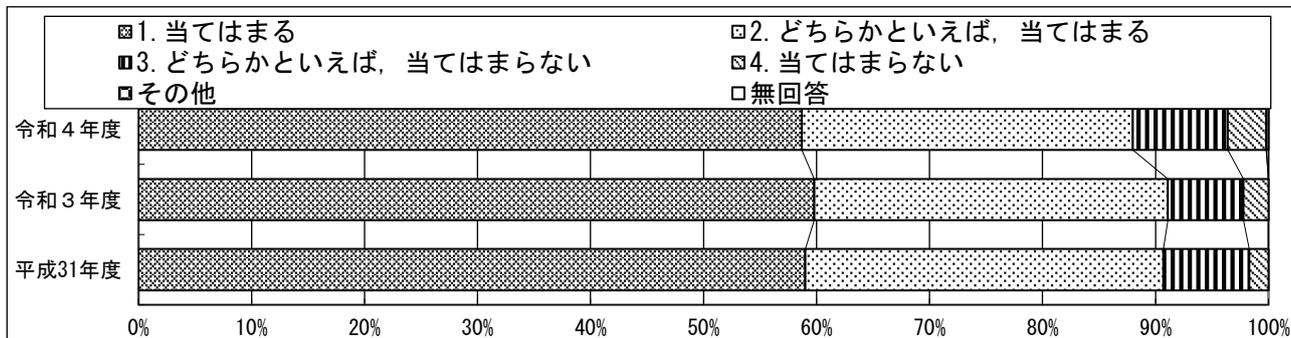
### 〔国語に関する質問紙調査〕

#### 【小学校】

質問番号	質問事項										
(50)	国語の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	62.5	28.4	6.7	2.2				90.9		0.0	0.2
令和3年度	65.3	28.3	5.0	1.5				93.6		0.0	0.0
平成31年度	64.4	29.3	4.1	2.2				93.7		0.0	0.0

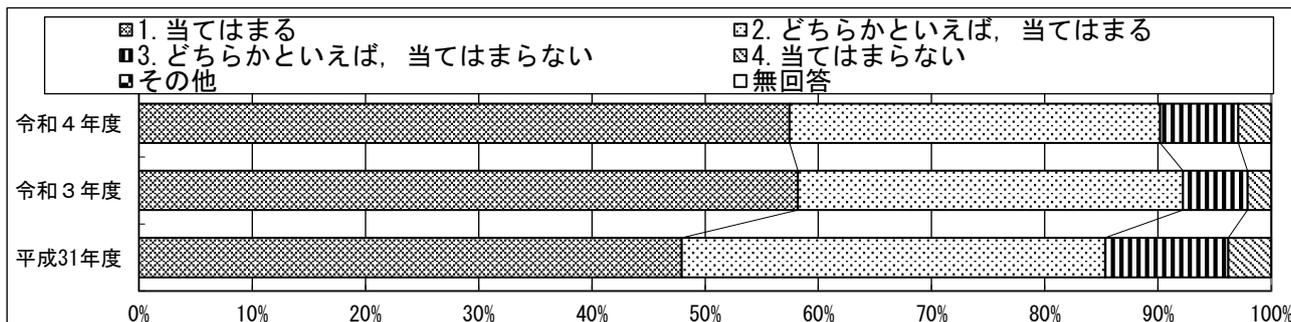


質問番号	質問事項										
(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	58.7	29.3	8.4	3.4				88.0		0.0	0.2
令和3年度	59.8	31.3	6.7	2.2				91.1		0.0	0.0
平成31年度	59.0	31.7	7.6	1.7				90.7		0.0	0.0

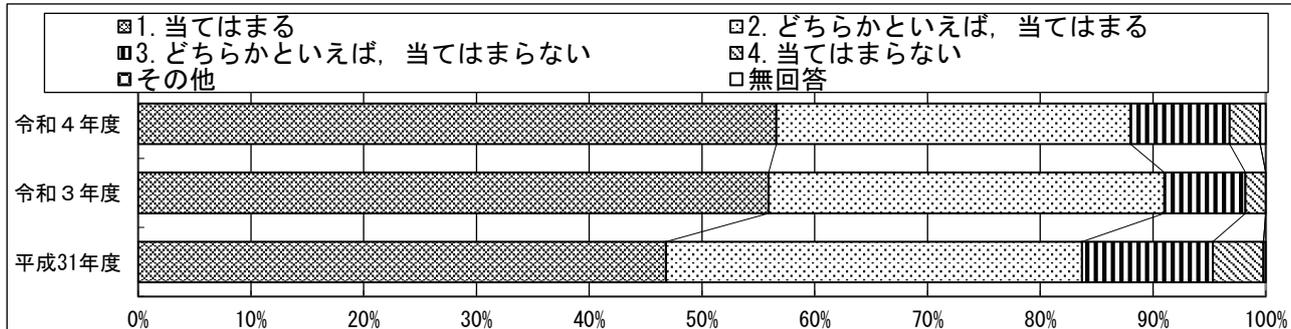


【中学校】

質問番号	質問事項										
(50)	国語の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	57.4	32.7	6.9	2.9				90.1		0.0	0.0
令和3年度	58.2	34.0	5.7	2.1				92.2		0.0	0.0
平成31年度	48.0	37.4	10.9	3.8				85.4		0.0	0.0



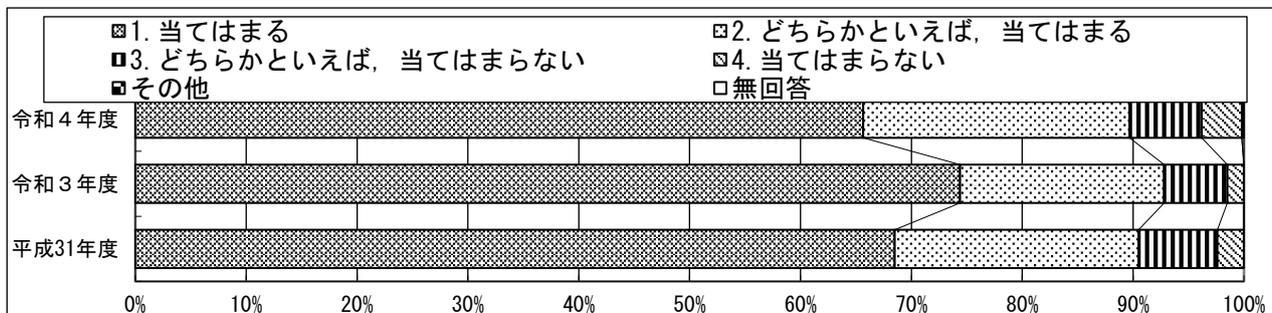
質問番号	質問事項										
(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	56.6	31.4	8.8	2.7				88.0		0.0	0.5
令和3年度	55.9	35.1	7.2	1.8				91.0		0.0	0.0
平成31年度	46.8	36.9	11.6	4.5				83.7		0.0	0.2



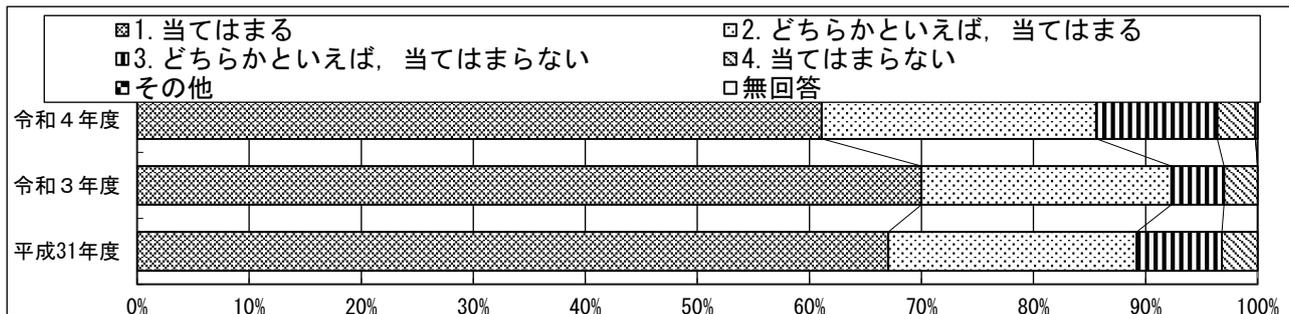
〔算数（数学）に関する質問紙調査〕

【小学校】

質問番号	質問事項										
(54)	算数の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	65.6	24.0	6.5	3.6				89.6		0.0	0.2
令和3年度	74.4	18.4	5.7	1.5				92.8		0.0	0.0
平成31年度	68.5	22.0	7.1	2.4				90.5		0.0	0.0

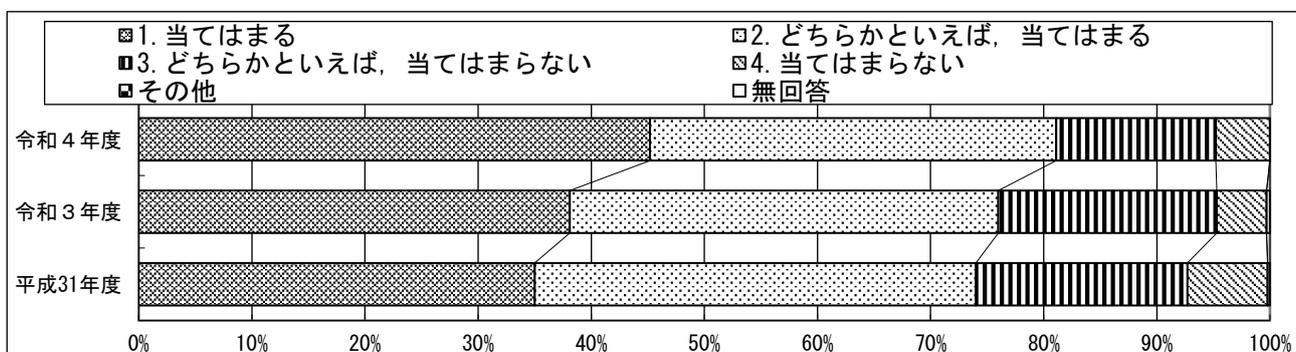


質問番号	質問事項										
(56)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	61.1	24.5	10.8	3.4				85.6		0.0	0.2
令和3年度	70.0	22.3	4.7	3.0				92.3		0.0	0.0
平成31年度	67.1	22.2	7.6	3.2				89.3		0.0	0.0

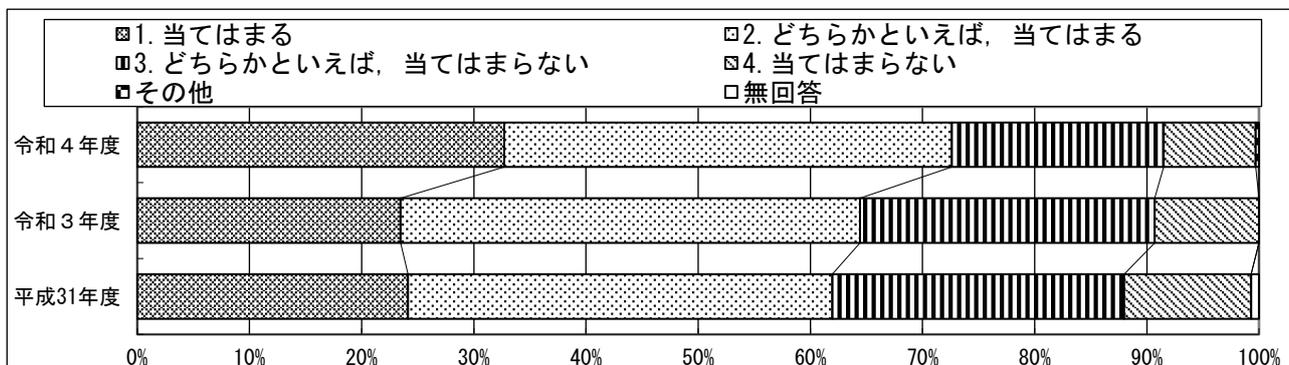


【中学校】

質問番号	質問事項										
(54)	数学の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	45.2	35.9	14.1	4.8				81.1		0.0	0.0
令和3年度	38.1	37.9	19.3	4.4				76.0		0.0	0.3
平成31年度	35.0	39.0	18.7	7.1				74.0		0.0	0.2



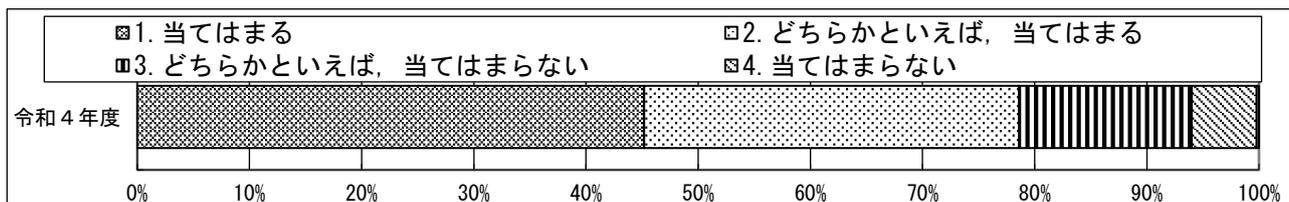
質問番号	質問事項										
(56)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	32.7	39.9	18.9	8.2				72.6		0.3	0.0
令和3年度	23.5	41.0	26.3	9.3				64.5		0.0	0.0
平成31年度	24.1	37.8	26.0	11.3				61.9		0.0	0.7



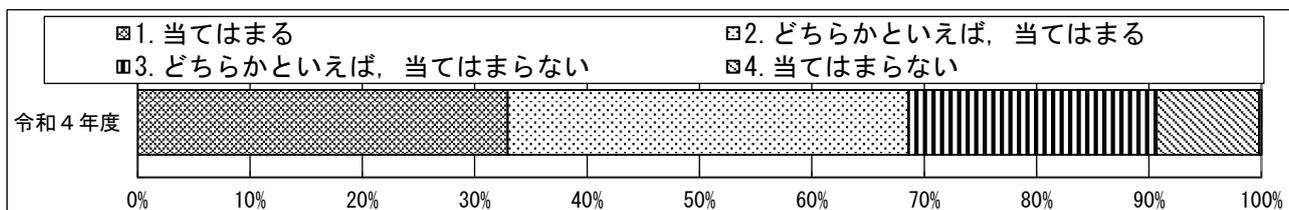
[理科に関する質問紙調査]

【小学校】

質問番号	質問事項										
(62)	理科の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	45.2	33.4	15.4	5.8				78.6		0.0	0.2

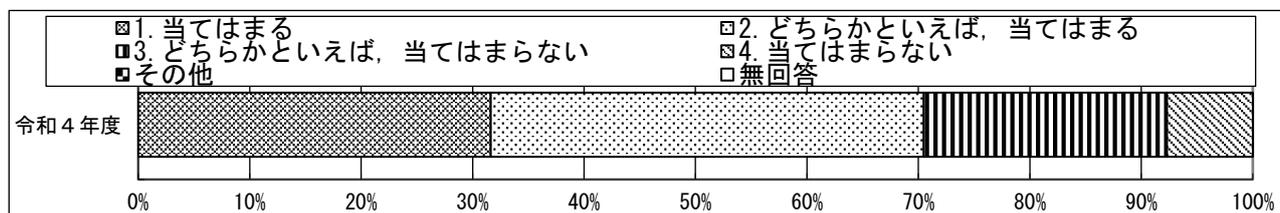


質問番号	質問事項										
(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	32.9	35.6	22.1	9.1				68.5		0.0	0.2



## 【中学校】

質問番号	質問事項										
(62)	理科の勉強は大切だと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	31.6	38.8	21.8	7.7				70.4		0.0	0.0



質問番号	質問事項										
(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	当てはまる(1+2)	9	その他	無回答
令和4年度	19.4	37.8	29.5	13.0				57.2		0.0	0.3



小学校・中学校共に、教科の勉強が大切であることを認識し、また、その勉強が将来社会に出たときに役に立つと認識していると、多くの児童・生徒が感じていることが結果から伺えます。これが児童・生徒の学びに向かう力の大きな支えになっていると考えられます。理科については、全国平均同様、国語、算数・数学より役に立つという回答が少なくなっていますが、理科とは、自分自身を含めた自然について学ぶ教科であるため、「社会に出てから役に立つ」というよりは、「生きるために役に立つ」と考えられるかもしれません。

寒川町の小・中学校の校内研究では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいます。学習指導要領で求められていることと、寒川町が向かっている方向性は同じです。自分の考えを書く・話すという活動は、学習指導要領における3つの柱の一つである「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。

「考えること（思考力）」を育てていくためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取組を進めていき、今後も「自分の考えを話したり、書いたり」という活動を、授業において意図的・計画的に取り入れることが必要となります。このことによって、子どもたちが自分の考えを持つことができるようになると思われまます。

また、今年度の課題として、小学校・中学校ともに「他者の視点を取り入れ、調整し、自分の考えをまとめる」「2つの表を比較して考えをまとめる」などの活用を問う問題を苦手とする傾向が見られました。この部分は、学習評価の3つの観点の一つ「主体的に学習に取り組む態度」の中の「自己の学びを調整する力」につながります。今後ICTの活用も含め、意見を共有し、さらにそこから自分の考えの枠を広げ、「より深めた考えをしっかりとまとめ、書く」という力を育成していくことが大切です。そして、活用の力をつける

ためには、それを支える基礎基本をしっかりと築く必要があることを忘れてはいけません。自分の考えをまとめ、他者と共有し、さらにもう一度自分の考えに戻り、自分自身の考えの変容を感じる中で、そこに出てくる基本的な内容をしっかりと押さえる。このような授業を展開していく事で、今年度の課題の解決、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうと考えます。

「どんな子どもたちに育てたいのか」という明確なビジョンを教師がもって授業づくりに臨むこと、そして、このような「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを核とした取り組みを継続的に行うことで、児童・生徒一人ひとりの考える力を伸ばすことができると考えます。